

## 魅力と特色づくりアンケート結果について

### 1. 基準となる指標について

「魅力と特色づくりアンケート」のうち、「高校生活において、課題の発見と解決に向けて、主体的に考えたり、発表しあうなどの協働的な学習活動を行うことによって、中学生のときよりも思考力・判断力・表現力等を高めることができたと思いますか。」の問い合わせに対する高校生の割合を指標とし、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」と回答した者の変化を見た。

### 2. 指標の結果について

令和5年度に卒業した生徒（4期生）の回答結果は、「そう思う」40.8%、「どちらかといえばそう思う」

46.7%で二つを合わせると87.5%であった。

令和6年度に卒業した生徒（5期生）の回答結果は、「そう思う」61.5%、「どちらかといえばそう思う」32.4%で二つを合わせると93.9%となり、令和5年度よりも6.4ポイント上がる結果となった。

### ●令和4～6年度卒業生の結果

質問項目 A-4：高校生活において、課題の発見と解決に向けて主体的に考えたり、発表しあうなどの協働的な学習活動を行うことによって、中学生の時よりも思考力・判断力・表現力を高めることができたと思いますか。			
回答	令和4年度	令和5年度	令和6年度
4. そう思う	39.3%	40.8%	61.5%
3. どちらかといえばそう思う	45.4%	46.7%	32.4%
2. どちらかといえば満足していない	9.8%	9.2%	3.3%
1. ほとんどあてはまらない	5.5%	3.3%	2.8%

### 3. 結果の分析について

令和7年3月に卒業した生徒は、入学直後に、新型コロナウィルス感染症の感染症上の位置付けが5類感染症になったことにより、今まで行っていた学校生活における様々な制限が緩和され、コロナ禍以前の学校生活に近くなつたことが考えられる。

また、授業の実施についてもオンライン授業がなかった学年であったことや本校の県立高校指定校事業が3年目を迎える、多くの授業で本校のグラデュエーションポリシーを踏まえた授業が実施されたことが影響したと考えられる。